

③ 事例研究

課題

事例研究を参考に、個別支援計画を作成するうえで必要と思われることをまとめ、あなたの所属する機関における個別支援計画の課題を述べなさい。

事例研究を参考に、個別支援計画を作成するためには、その事例研究が、誰が見ても分かりやすいものである必要がある。私の所属する事業所では、ケース会議やモニタリングは行われるものの、事例研究として、期間を定めた研究的な取り組みはないと言える。そのような状況で作られる個別支援計画の課題、また、どうすれば、私の事業所において有効的に事例研究に取り組んでいけるのかについて検討する。

誰が見ても分かりやすい事例研究にするために、まず、具体的で実現可能な目標設定をすることである。「他の利用者と仲良く過ごす」というような、曖昧な目標だと、その先の支援計画も曖昧なものになってしまい、意義のある研究にならない。そのため、対象利用者のアセスメントを元に、ニーズは何なのか検討し、標的となる行動をしぼり、目標を設定する。その目標が、重度の視覚障害がある人に対して「運転免許を取る」というような、不可能な目標であってもいけない。本人の障害、性格、周囲の支援環境等を考慮し、無理なく実現できるような目標がよいと思われる。また、本人の同意を得て、本人も納得した状態で参加できることも重要であると考え。支援計画は、どのような場面・時間に課題を設定するのか、支援者の働きかけ、声かけの仕方、使用する視覚資料や自助具等、具体的に定める。支援には、毎回決まった支援者が関わることは困難である

ことが多いので、誰が支援に当たっても統一した方法で支援ができるように、マニュアルを作るなどの工夫が必要である。データの取り方、まとめ方は、支援による事例の変化が正確に分かるように、信頼性のあるものでなければならない。基準を定め、チェック表を作成するなどして、誰がデータを取っても結果にばらつきがないようにする。また、支援前後の変化が分かりやすいように、表やグラフにまとめるとよい。結果・考察では、その支援が有効であったのかどうか、今後の課題が何なのかが明記されていることが大切である。それによって、次回の個別支援計画に活かしていけることはもちろん、似たような事例などに応用していくこともできる。また、支援者が変わったり、利用者自身が他の事業所に移ったりした際にも有効な、価値のある研究になると思われる。

事例研究を参考に個別支援計画を作成することが、有意義なことだと学習はできたが、私の事業所においては現在、事例研究の取り組みはない。理由をあげるとするならば、アセスメント、個別支援計画の作成、個別支援面談の実施、ケース会議、モニタリング等の実施だけでも、日々の生活支援、日中活動支援の中で実施するのは時間的にも人員的にも厳しいものがあるということだと思う。このように、事例研究を実施せずに作成される個別支援計画の課題とは何だろう

か。個別支援計画を作成する際、本人からの聞き取り、前年度の計画とその評価、事業所での普段の生活の様子、家族や前にいた事業所からの情報等を参考に、アセスメントをし、本人のニーズを見極め、計画を作成する。その元になる情報には、主観的なものが多いように思われる。事例研究を行い、正確なデータをとることによって、支援者や家族の主観だけではない、客観的な支援計画の根拠が得られると推測される。2点目の課題として、個別支援計画が、事業所内のみで完結してしまうことがあげられる。事例研究に取り組み、事例をまとめ、よい事例は外に向けて発表したりすること、また、外部のよい事例を参考にしたりしていくことも大切だと感じる。それがないと、各事業所だけの独自のやり方、視野の狭い支援になってしまうのではないだろうか。それぞれの事業所の特徴を出していくのは意義のあることだと思えるが、「自閉症者にはこのような支援がよい」というような、凝り固まった支援になってしまう危険性もある。

このような課題を踏まえ、私の事業所において、有効的に事例研究に取り組んでいくにはど

うしたらよいただろうか。私の事業所にも、生活のしづらさを抱えた利用者は多く、その支援に日々悩みを抱えている。そのような事例においては、定期的にケース会議で取り上げ、話し合いの機会をもっている。ケース会議においては、活発に議論を交わし、対応案を検討、支援の実施、次回のケース会議での報告を行っている。うまくいった事例もあれば、改善されない事例もあり、そのような事例については再度検討する。このケース会議を元に、事例研究へと発展させていくことができるのではないかと思う。時間的、人員的問題についても、1年に2～3名を事例として取り上げ、その研究の期間を定め、実施方法を工夫すれば解決できるのではないだろうか。それによって支援員個々人のスキルアップ、事業所全体の理念、支援の方向性も、より強固なものになっていくことが期待できる。

講評：

よくまとまったレポートです。今回のレポート作成で理解し、感じたことを実現するために、あきらめることなく努力してください。その為には、自分の考えに固執しすぎないことも必要です。今後も、利用者主体のより良き実践に励まれることを期待致します。